

第30週の発生動向(2007/7/23~2007/7/29)

1. 咽頭結膜熱については、上十三保健所管内において第14週から、むつ保健所管内では第16週から、**警報**が継続しています。
2. ヘルパンギーナについては、弘前保健所管内において第26週から、東地方+青森市保健所管内では第27週から**警報**が継続しています。

第30週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数		定点	数	定点	数
(100) インフルエンザ															-1				
(72) RSウイルス感染症							1	0.20					1	0.02	0				
(73) 咽頭結膜熱			4	0.44	2	0.22			12	2.00	6	1.50	24	0.57	-6				
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.33	15	1.67	3	0.33	3	0.60	4	0.67			28	0.67	-17			3	0.38
(75) 感染性胃腸炎	13	1.44	7	0.78	12	1.33	14	2.80	5	0.83	10	2.50	61	1.45	-9	3	3.00	10	1.25
(76) 水痘	1	0.11	5	0.56	1	0.11	2	0.40	10	1.67	9	2.25	28	0.67	-11			1	0.13
(77) 手足口病	6	0.67	18	2.00			1	0.20	3	0.50			28	0.67	15			6	0.75
(78) 伝染性紅斑					7	0.78			2	0.33	3	0.75	12	0.29	-2				
(79) 突発性発疹	6	0.67	3	0.33	7	0.78	3	0.60	1	0.17	4	1.00	24	0.57	1	2	2.00	4	0.50
(80) 百日咳	1	0.11											1	0.02	1			1	0.13
(81) 風しん															0				
(82) ヘルパンギーナ	92	10.22	52	5.78	2	0.22	7	1.40			18	4.50	171	4.07	30	9	9.00	83	10.38
(83) 麻疹(成人を除く)					1	0.11							1	0.02	-1				
(84) 流行性耳下腺炎	6	0.67			6	0.67	1	0.20	5	0.83	1	0.25	19	0.45	-11			6	0.75
(86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎							3	3.00	3	1.50			6	0.55	4				
(95) マイコプラズマ肺炎					2	2.00					6	6.00	8		3				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (19年計には、今回届出された人数を含む) 報告数は速報値です。

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 上十三保健所1人、八戸保健所1人 (19年計:87人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 弘前保健所1人、上十三保健所1人 (19年計:7人)

病原体検出情報

八戸保健所管内において、第28週に、肺炎及びARDS(急性呼吸窮迫症候群)と診断された患者1名からアデノウイルス3型及びマイコプラズマニューモニアが検出されました。

感染症の窓



ウエストナイル熱



蚊が媒介する感染症には、マラリアやデング熱などの他、アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、米国等で、夏から秋にかけて流行するウエストナイル熱があります(図)。

潜伏期間は3~15日で、症状は、発熱(39℃以上)、頭痛、倦怠感などの風邪様症状ですが、高齢者では、筋力低下や意識障害など脳炎を起こすことがあります。

感染はウイルスを保有している蚊に刺されることにより発症することから、予防は、虫除けローションの使用、長袖、長ズボンの着用によって、蚊に刺されない工夫をすることです。

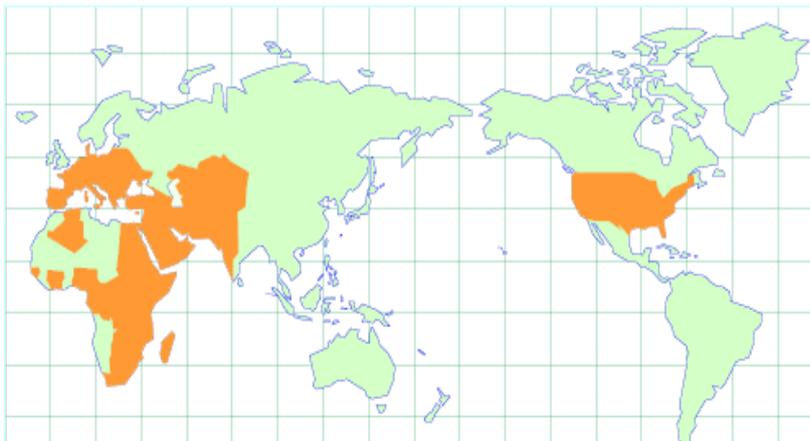


図 ウエストナイルウイルスの分布地域 (厚生労働省検疫所)

夏休みに海外へ出かける方は、旅行先の感染症情報を確認のうえ、感染予防の方法を知ることが大切です。また、帰国時に発熱などがある場合は、検疫所健康相談室や医療機関等へ相談することをお勧めします。